



わになつて

幕別町発達支援センター

令和8年度

第3号

令和8年8月24日発行

今年の夏から、気温 40 度以上を“酷暑”と表すようになり、昨年のような暑さを想定していましたが、北海道に限っては蒸し暑さがあるものの意外に過ごしやすかったのではないのでしょうか？また、“夏の思い出”もたくさんできたでしょうか？思い出を伝える子ども達の表情を見ていると、豊かな経験が子ども達のエネルギーになっているのだと改めて感じます。

一方で、熊本地震や千葉の豪雨など自然災害が頻繁に起きるようになり、いつ起こるかわからない災害に備えていかなければと思います。災害に限らず、勉強も仕事も【備えあれば憂いなし】ですが、体験して始めて気づき身につけていくのが人間です。体験したことのない事態に対してどうやって想定して準備をするのか…過去の体験から学び、他者の体験(教え)を自分事として捉えていくことが大事だと感じます。何事においても日頃の【備え】を大切に…自戒も含めて意識していきたいですね。

※9月1日は防災の日(大正12年9月1日関東大震災が発生)

発達支援講演会を開催しました！

8月7日札内コミュニティプラザにおいて、北海道療育研究所代表で作業療法士の世良彰康さんを招き『子どもの育ちをささえる土台作り～日常の生活に感覚統合を～』と題して講演会を開催しました。【感覚統合】が、生活や遊び、子どもの行動の背景にどのように関係しているのか…講演の内容を一部お伝えいたします。

☆レベル1(基礎的な感覚:外の世界(情報)に気づく・入力する)

- ・触覚(肌)～愛着を感じ情緒的安定性を育む
- ・前庭覚(内耳)～バランスや自分の動きを感じ取る
- ・固有受動覚(筋肉や関節)～体の位置や姿勢の保持、力の調節を感じ取る

⇒触れ合い遊び、ブランコや滑り台、ボール遊びなど全身を使う遊び

☆レベル1が崩れると…

落ち着きのなさ、音や光への過敏、姿勢の崩れ、力加減のわからなさなど

☆レベル2(身体を上手に使う力)目的のある行動につなげる

- ・体を使って目的をもって物を操作する
- ・自分の身体の位置や動きがわかる
- ・考えて体を動かす(運動企画)

⇒物を入れる・出すなどの玩具の操作
身体模倣、サーキット遊び

☆レベル2が崩れると…

ハサミ等物の扱いが苦手、注意が続かない
運動を覚えるのに時間がかかる

☆レベル3(知覚運動協応)レベル1の感覚が視覚と聴覚と統合されて認知能力(考える・理解する・行動する)が発達する。

- ・言葉が分かり伝えられる、注意を向ける
- ・物の形や位置を見分け理解する
- ・体を上手に動かせる、集中して取り組める

⇒パズルや言葉遊び、ルールがある遊び

☆レベル3が崩れると…

指示が入りにくい、話を聞けない
工作・読み書き・図形が苦手

☆レベル4(学校で学ぶために必要な能力)

- ・30分程度の着席や利き手の確立
- ・見る、聞く、触れる、体を動かす…感覚を整理して上手く使う
- ・人と上手く関わる、問題を解決する力

☆レベル1の基礎的な感覚の統合にアンバランスが生じると、2・3・4のレベルも崩れ…

集中できない、勉強が苦手、自信がない、
友達と上手く遊べない…

人は多くの刺激を脳で処理し、適切な反応(行動)を起こしています。しかし、感覚の入力や統合のアンバランスがあると集団参加や適応を困難にし、問題行動にもつながってしまいます。その子の感覚について理解するには、何よりも【一緒に遊び、注意深く観察し、アンバランスさを理解】して適切な刺激を与えていくことが大切です。そして、適切なレベルで成功体験を積み重ね、やる気や自信を育めるように意識していくことが大切です。

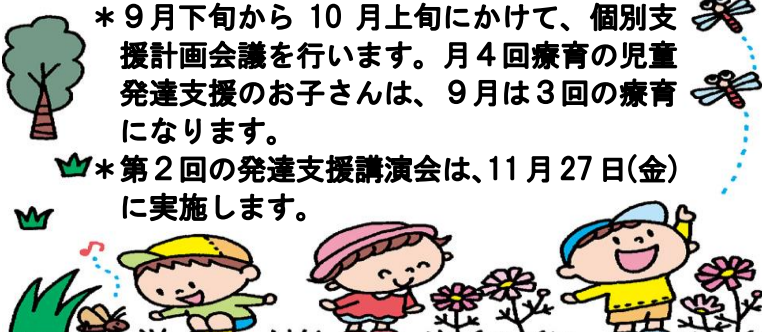
おねがい

- *水分補給用のお水またはお茶を忘れずに持参ください。
- *来所の際、職員玄関を利用している方を見かけます。正面玄関を利用してください。



お知らせ

- *9月下旬から10月上旬にかけて、個別支援計画会議を行います。月4回療育の児童発達支援のお子さんは、9月は3回の療育になります。
- *第2回の発達支援講演会は、11月27日(金)に実施します。



『自分の存在を認められたい』 文：八重柏 一輝

「ご飯を食べたい」、「眠くなったから寝たい」という欲求は、毎日の生活の中で誰しも経験したことがあると思います。しかし、人間の中にある“欲求”は他にもあるというのをご存じですか？

人間には、大きく分けて5つの欲求があるとされています。それらは、独立したものではなく、下図のようにピラミッドのように積み重なっています。下の欲求が満たされる（得られる）と、次の欲求が生じます。食欲や睡眠欲といった生きるために必要な欲求は、一番下段の「生理的欲求」に入ります。



「安全の欲求」は、食べたりゆっくり寝られるといった環境、**安心安全で健康な状態を維持したい**という欲求で、日々の生活が継続することを求めます。安全な生活が確保されると、次に生じるのが「**所属と愛の欲求（社会的欲求）**」です。これは、身の安全が得られた後に生じるもので、人間関係にかかわる欲求です。

「承認の欲求（承認欲求）」は、耳にしたことがある人は多いのではないのでしょうか。「**人に認められたい**」という欲求のことで、**自己肯定感**にもつながるものです。しかし、今回ポイントになるのはその前の欲求、「**所属と愛の欲求（社会的欲求）**」の大切さです。承認の欲求の前に、実は「**自分の存在を認めてもらいたい**」という欲求が生まれます。それは、「**ここにいていいんだ、自分の居場所はここなんだ**」という感覚です。クラスや少年団のチーム、サークル、いつも遊ぶ仲間など、家族以外の他者がいる社会の中で、自分の存在を認めてもらえることがとても重要なのです。

自分の存在を認めてもらってはじめて、「自分のできることを認めてもらいたい、頑張りを褒められたい」という「承認の欲求」が生まれます。子どもにとっては、自分の存在を認められる場所、所属感（自分がそこに属しているという感覚）をどれだけ感じられるかがとても重要になります。

例えばクラス替えという出来事は、この所属感が揺らぎやすい一大イベントです。クラス替えによる揺らぎを小さくするために大切なことは、クラスを越えた友達や先生のつながりなど、クラスに左右されない大人との関係性ができていること、学年や学校など、クラスよりも大きい単位の所属感をもてることです。**困ったときに頼れて、何でも話せる大人が身近にいる安心感**を、得られる環境を子ども達に作ってあげたいですね。

遊びの紹介 「吹く」遊びで「福」を呼び込もう

文：笠井

お子さんはシャボン玉を上手く膨らますことができますか？お誕生日にろうそくの火をそっと消すことができますか？

ストロー付きのマグに慣れていて、吸い込むのは得意でも、「吹く」動作が苦手な子を時々見かけます。口をすぼめたつもりで息が漏れていたり、唇を丸められずにヨダレが垂れてしまうのは、口元の筋力が関係しています。

センターでは、**スポンジボール、ピンポン玉、ティッシュ、巻笛、かざぐるま、ストロー**などを使った遊びで、楽しみながら「吹く」力の向上に働きかけています。

口元が鍛えられると、食べ物をよく噛み味わえるようになったり、発音や滑舌にも良い影響があると思います。表情筋もアップして、口角もあがり…、もっと可愛い笑顔が『福』をもたらしてくれるはず!!



今すぐできる！
ストローポッケー

机で向き合って、
丸めたティッシュ
を相手陣地に落と
した方が勝ち！

吹く遊びの数々

